

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(30)年度 音声読み上げアプリケーションを活用した支援～OMLET読めるんです～
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	物語文・ちいちゃんのかげおくり
	授業の目標	・場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目し、場面の様子を想像しながら読む。 ・色が表すイメージ・心情を捉える。 ・戦争について考える。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (3)年 (34)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD(学習障害) <input checked="" type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input checked="" type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと <input checked="" type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input checked="" type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 読み書き、特に新出漢字や文章を書くことが定着しない状況であった。 板書や作文等の書字、文章の構成に困難を抱えている。 長文を読むことに時間がかかり、疲れやすい。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 物語文の内容を理解するために、紙媒体の文字では読みにくさがあり、他の児童と同じ時間で読むことが困難であるため、音声読み上げ機能を使い(OMLETよめるんです)、内容を理解することができるようにする。また、黒板の内容を書き写しきれない情報を画像で記録し、見直し等ができるようにする。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	支援機器:iPad アプリケーション:OCR(紙の文字をデジタルテキスト化) アプリケーション:OMLETよめるんです(音声読み上げ機能) ノイズキャンセリングイヤフォン
授業展開	授業展開・支援の手立て	1.内容を理解するためには、紙媒体の教科書の文字では読みにくさがあり、他の児童と同じ時間で読むことが困難である。そのため音声読み上げ機能を使い、内容を理解することができるようにする。また、授業の中で、どの部分について話し合われているのかをハイライト機能や音声読み上げ機能を用い把握する(図1)。 2.物語文を読み、初めに感じたところを、文章中の言葉を使って文章にする。  図1 音声読み上げ機能
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	紙媒体で配布された物語文(フォント10.5ポイント)を読むと疲れを感じ、一度に読み上げることができない。音声支援機能を使い、他の児童と同じような時間で文章を音声で理解した。その後の活動では、内容に関する記述が見られ、文章から読みとった情景から、登場人物の心の動きや状況の変化を理解する記述が見られ、活動のねらいが達成された。ただし、感想は、紙に鉛筆で書いていたため、書く消すの繰り返しで最初の段階で多く見られたため他の児童より5分時間を追加して書き上げた。今後は、テキスト入力等も視野にいれて書字のサポートを検討する。